



The Human 識者に聞く

日本口腔外科学会では、2015年9月に札幌医科大学で行われた「第1回日本口腔外科学会・日本顎関節学会キャダバーワークショップ」を皮切りに、11月に千葉大学、2016年2月に愛媛大学と、現在までに計3回のキャダバー・ワークショップを開催。さらに今年の9月には、再び札幌医科大学でキャダバー・ワークショップを行う予定です。このキャダバー・ワークショップを立ち上げから主導する、日本口腔外科学会理事長の栗田賢一氏に、キャダバー・ワークショップ開催の経緯と現状、そして今後の展望についてお話を伺いました。

キャダバー・トレーニングを通して若い世代を育てていきたい

公益社団法人 日本口腔外科学会
理事長

栗田 賢一

1975年愛知学院大学歯学部卒。1984年歯学博士取得。1985年愛知学院大学歯学部講師、助教授を経て、1998年より顎口腔外科学講座 主任教授。岐阜大学などで非常勤講師を務めるほか、各種学会の理事も務める。



長年持ち続けてきた キャダバー・トレーニングへの思い

私がキャダバー・トレーニングに初めて出会ったのは、1987年にスウェーデンのルント大学に留学したときです。当時、ルント大学のあるマルメ市では、亡くなった方の約8割が献体をされていました。市民の理解の深さとともに驚いたのが、ご遺体から得られる多くの学びです。診断や実技から研究まで、ご遺体が医学の進歩に役立っていることに深い感銘を受けました。

「日本でもできれば」。そう思い続けて20年余り経った2010年頃、メリジャパン初代理事長だった蜂谷裕道先生にお会いし、その活動を知ります。ちょうどその頃から、日本での理解も進み、2013年に日本外科学会がガイドラインを公開。少しずつ環境が整備されていきました。

そして2015年1月、札幌医科大学において、同大学主催・メリジャパン共催で、初めて一般公募キャダバー・セミナーが開催されます。これがきっかけとなり、口腔外科学会もセミナーを行うべく始動。多くの方のご理解とご協力を得ながら、同年9月の第1回開催にこぎつけました。

効率的・効果的な学びが 患者さんの安全に繋がる

現在までに3回のキャダバー・ワークショップを開催し、改

めてキャダバー・トレーニングの有用性を実感しています。たとえば、アゴから首の部分には、細い血管や神経が複雑に通っているのですが、その手術は現状ではOJTで覚えるしかありません。しかも、実際の手術で見えるところは、切っている部分だけです。しかし、キャダバー・トレーニングならば、細かい手技が学べるだけでなく、皮膚、脂肪を切ったあと、どこにどのような血管や神経があり、どこまで切ったら危険なのか、ということまでわかります。また、若手の医師が行う機会のほとんどない、緊急時の気管切開なども、キャダバー・トレーニングであれば学ぶことができます。

効率的かつ効果的に学べるキャダバー・トレーニングは、医師のスキルアップだけでなく、患者さんの安全に大きく寄与するものです。私は、難しい手術をする場合には、キャダバー・トレーニングの後、やるべきだと思っています。

学会をあげてサポートし 若い医師の学びの場に

現在、日本口腔外科学会では、学会内にキャダバーの委員会を作り、全面的にキャダバー・ワークショップをバックアップしています。またワークショップを行う際には、これまでも日本顎関節学会、日本口腔科学会と共催してきたように、なるべく複数の学会で開催し、キャダバー・トレーニングの輪を広げようと考えています。

これらの取り組みのなかで重点を置いているのは、若い世代、次の世代の医師を育てていくこと。教育効果の非常に高いキャダバー・トレーニングを、医師の教育に活かすことが重要です。将来的には、キャダバー・トレーニングを臨床実習や卒後教育に取り入れることも必要だと考えています。

今後も、キャダバー・ワークショップを積極的に開催し、献体されたご遺体、ご遺族への感謝の念を込め、若い医師に学びの場を提供していきたいと考えています。

医療を育てる活動の輪に、あなたもご参加ください。

日本の医療技術の習得や開発は、私たちの、未来の日本のためのものです。外国の施設や善意にいつまでも頼るのではなく、医療の質と安全については、日本国民自らが負うべきではないでしょうか。メリジャパンの趣旨にご賛同いただける方は、寄付、または会員登録、署名など募集していますので、ぜひご協力ください。お問い合わせをお待ちしています。

◆ 会員の種別

会員の種別	特 徴	年会費
正会員	総会議決権を持つ会員です。 運営にも積極的に関わっていただきます。	個人会員 ¥5,000
		法人会員 ¥10,000
賛助会員	総会の議決権はありません。 活動を支援してくださる方が対象です。	個人会員 ¥3,000
		法人会員 ¥5,000

※正会員・賛助会員ともに入会金は不要です。

医療を育てるワンコイン募金

医療事故や医療過誤をなくし、高度な医療技術の普及をめざすメリジャパンの活動を推進していくための募金を行っています。みなさんが、そしてご家族がより安全に高度な医療を安心して受けられるよう、日本の医療の質と安全性の向上をめざす活動を、みなさんの手で実らせてください。

募金方法

- 1 電話、FAXまたはE-mailで、
1. お名前 2. ご住所 3. 電話番号をお知らせください。
募金いただいた方には、活動報告を送付いたします。
・電 話:052-751-8197
・F A X:052-751-8169
・E-mail:meri_info@hachiya.or.jp
※いただきました個人情報は領収書、活動報告などの送付に使用し、それ以外の目的には使用いたしません。
※振込手数料はご負担いただきますようお願いいたします。
※法人での募金をご希望の方は事務局までご相談ください。
- 2 1口500円(個人の方のみ。口数制限はありません)を下記いずれかの口座にお振込ください。
・名古屋銀行 覚王山支店 普通3312469
口座名:トクヒ)メリジャパン
・三菱東京UFJ銀行 覚王山支店 普通0015826
口座名:トクヒ)メリジャパン
・ゆうちょ銀行 12140 89381881
(他行からお振込の場合は、
ゆうちょ銀行 218支店 普通8938188)
口座名:トクヒ)メリジャパン

3月15日現在までにみなさまより160,300円のご寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。

編 集 後 記

メリジャパンは事業であるキャダバー・トレーニング(ご遺体を使っの手術手技習得実習)を、札幌医科大学で昨年の1月と12月の2回行い、ご参加いただいた先生方に、ほぼ満足していただきました。またこの3月には名古屋市立大学で初めて行いました。

新聞報道でご存じの方もおられると思いますが、名古屋市立大学は「先端医療技術イノベーションセンター」の本格運用を今秋末に開始する予定です。この施設は一年中使えるよう計画されており、メリジャパンは名古屋市立大学のご理解とご支援をいただき、今後この施設を核としてセミナーを精力的に開催したいと考えております。

みなさまの更なるご支援をお願い申し上げます。(O)



MERI Japan

● お問い合わせ先

特定非営利活動法人メリジャパン

〒464-0821 名古屋市千種区末盛通2-4 はちや整形外科病院内

電話 052-751-8197 E-mail meri_info@hachiya.or.jp

URL <http://www.merijapan.org>

XLIF Cadaverトレーニング in 名古屋市立大学

東海エリア初の 一般公募キャダバー・トレーニング

2016年3月5日(土)・6日(日)に名古屋市立大学で「XLIF Cadaverトレーニングin 名古屋市立大学」が開催されました。本トレーニングは東海エリア初の一般公募でのキャダバー・トレーニングとなりました。

XLIFは比較的新しい脊椎手術の方法です。トレーニングへのご参加者は9名。愛知・岐阜など東海エリアの整形外科医を中心に、遠くは高知県からのご参加もありました。



1日目は座学、2日目にキャダバー・トレーニングを行いました。メリジャパンがキャダバーでの手術手技実習に携わるのはこれで3回目ですが、ご参加者全員が非常に熱心であることに感銘を受けます。学ぶ側の先生方もさることながら、教える側である講師の先生方の、自分の知識や技術をいかに伝えるかという気概と高揚感を毎回感じながらトレーニングを運営しています。

「失敗は成功のもと」という言葉がありますが、実際の手術での「失敗」はあってはならないことです。手術の「失敗」を防ぐため、本トレーニングでは解剖やあえて失敗することにも多くの時間を取りました。手術をする場所の近くにどんな神経や血管が通っているかを目で見て確認し、手で触れて感触をつかむ。どのように手術器具を取り扱えば神

経を傷つけずに手術ができるかを、さまざまな角度から機器を挿入して検証する。これはご献体での手技練習でなければ経験できないことです。

アンケート結果からもわかる トレーニングの有用性

昨年12月の札幌医科大学と、今回のトレーニングに参加された先生方へのアンケート調査(詳細は下記)では、医師経験年数は平均13.3(3~21)年でした。また、キャダバー・トレーニングの有用性を10点満点で尋ねたところ、平均9.7という高い点数で、トレーニングが有用であるとの回答をいただきました。



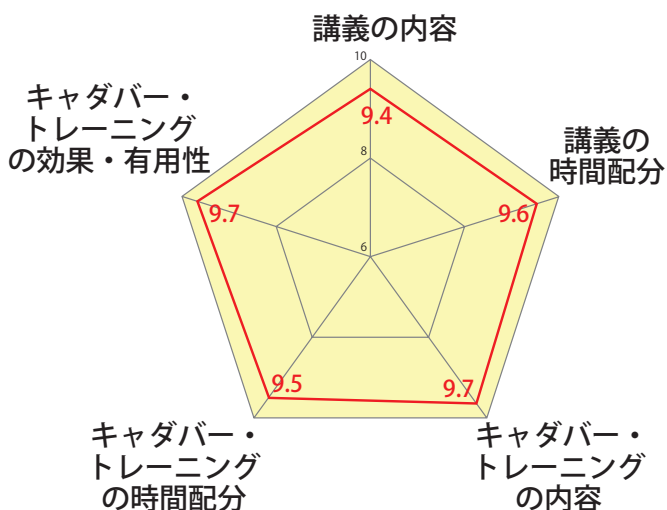
ベテランの先生が手術技術を伝え、後輩の先生がそれを十分に吸収してもらう機会をつくること。それがキャダバー・トレーニングであり、ご遺体の意思を活かすことであると考えています。キャダバー・トレーニングを継続して行うには、主催する大学の解剖学教室にかかる負担などの問題もあります。それにもかかわらず先生方が熱心に技術を教え、学ぶ場を提供してくださる名古屋市立大学、札幌医科大学、その他のキャダバー・トレーニングを行う大学解剖学教室のみなさまに感謝するとともに、先生方の熱心さを糧に今後も運営事業を続けていきたいと思っております。

2015年度キャダバー・トレーニングのアンケート結果

昨年度、メリジャパンが運営を行った2つの整形外科関連キャダバー・トレーニング(札幌医科大学と名古屋市立大学)には、計24名にご参加いただき、そのうち21名よりアンケートのご協力をいただきました。

アンケートでは、すべての項目で平均9点以上(10点満点中)のご評価を受け(右グラフを参照)、ご意見として、「実習時間も充分にあり、ご遺体と受講者数とのバランスも良い」「初級から高度な症例まで勉強できた」「講師の先生にもっとテーブルを回って欲しかった」、「解剖学的資料が欲しかった」などのお声を頂戴しました。

メリジャパンでは、こうしたご評価やご意見を活かし、より有意義なキャダバー・トレーニングを運営していきたいと考えています。



脊椎MIS Cadaver Seminar2015 レポート

1日目は講義と実習 懇親会を開催

札幌の初冬としては穏やかな陽気に恵まれた2015年12月12日(土)・13日(日)、札幌医科大学において「脊椎MIS Cadaver Seminar 2015」が開催されました。札幌医科大学主催、メリジャパン共催で企画・運営実施した2回目のキャダバー・セミナーとなります。講師には整形外科分野での著名な先生8名(うち2名はメリジャパン理事)と国内でのキャダバー・トレーニング実施に関して長年ご尽力されている国会議員1名、合わせて9名の先生をお招きし、全国各地から15名(うち2名は前回に続き2回目のご参加)の整形外科の先生が受講者として参加されました。

午前9時より座学を開始。冒頭メリジャパン常務理事が謝意を述べ、続いて主催者の札幌医科大学医学部解剖学講座および整形外科科学講座の先生のご挨拶、後援いただいた団体主宰者のご挨拶の後、講義を開始しました。



札幌医科大学倫理委員会承認セミナーにて撮影

講義は国会議員による「キャダバー・トレーニングに対する国の対応の経緯」、続いて医師の先生方による「セミナーの意義」、および「脊椎整形外科における6術式についての講義」と、2時間で6講義行いました。

午後は実習。大学側から注意事項などの説明がされた後、ご遺体に黙祷をささげ、手術手技の実習が始まりました。

た。実習は5つのテーブルに分かれ、それぞれのテーブルに講師の先生1名と受講者が3名つき、先生の指導のもと受講者に希望した手技を学んでいただきました。実習終了後、ご遺体を縫合して黙祷をささげ、1日目のプログラムを終えました。19時から関係者全員が参加しての懇親会が催されました。ここでも受講された先生方が、講師の先生方にいろいろ質問をされていました。

2日目は終日実習

午前9時からご遺体に黙祷をささげた後、1日目と同じ形で手術手技の実習を開始しました。13時30分まで実習を行い、その後、ご遺体を縫合して黙祷をささげ、2日目のプログラムを終えました。

今回のセミナーは、前回のセミナーでのアンケートで要望の多かった「実習時間を増やしてほしい」とのご意見を反映して、実習時間を8時間(前回は4.5時間)としました。また前回は1.5時間ごとに一つの術式を実習する形としたため、多い人は3回テーブル移動することになり、慌ただしい実習となりました。今回は移動をなくし1回の実習に長い時間をかける形に改めたため、落ち着いた雰囲気での実習となりました。参加された先生方は2日間とも集中して実習に取り組み、指導される先生方も細かい点までご教授されていました。



札幌医科大学倫理委員会承認セミナーにて撮影

脊椎MIS Cadaver Seminar 参加レポート

2015年1月と12月に開催された脊椎MIS Cadaver Seminarに参加させていただきました。セミナーでは著名な脊椎外科の先生方のご指導のもと、実際の手術機械を用いて手術シミュレーションを行うことができました。医療機器や手術手技の進歩により、脊椎手術分野においてもMISの手術手技が増えてきています。しかし、実際にそのような手術を新たに導入し始めようとした際に安全に行うのには、大きな壁や落とし穴がたくさんあると思います。Cadaver Seminarでは、そのようなポイントも経験豊富な先生方に少人数のグループで手取り足取り教えていただけて本当に勉強になりました。夜の懇親会でも、経験豊富な先生方から近い距離で今後の脊椎MIS手術の展望に関して熱い話も拝聴することができ、今後の仕事のモチベーションにすることが

ことができました。今回、大変貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。私は今回経験したことを活かし日々の診療、患者さんにとってより負担の少なく安全な脊椎手術に繋がるように精進致します。最後に医学の教育発展のためにご献体いただいた患者さま、御遺族の方々に感謝申し上げます。また、このような整形外科医の教育の環境を作っていただいた札幌医大の解剖学教室、整形外科科学教室の先生方、セミナーでご指導いただきました先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。



独立行政法人国立病院機構
宇都宮病院 整形外科

山元 駿